



11/30

多彩な伝統芸能、その歴史と現状、未来を考える むらかみ伝統芸能を考える集い（教育情報センター）

第34回国民文化祭・第19回全国障害者芸術・文化祭の最終日に「むらかみ伝統芸能を考える集い」が行われました。

ステージ上では基調報告の後、舞台発表として小国町の獅子舞と大津獅子踊りが披露され、またパネルディスカッションでは大須戸能保存会、MTASあらかわ、牛屋獅子舞保存会3団体により伝統芸能の継承に向けて意見が交わされました。MTSあらかわの代表者は「獅子踊りの活動が地域の誇りや帰属意識を高め、伝統芸能の保存継承のみならず、地域全体の活性化につながっていくことを期待したい」と話していました。



▲大津獅子踊りの披露

12/1

子育て中のパパママを応援 わくわくバザー（市総合文化会館）

朝日地区地域会議が主催したパパママ応援イベント「わくわくバザー」。子ども用衣服などのバザーや読み聞かせのほか、紙ヒコーキや紙すもうを作ったり、つみきを積み上げる高さに挑戦したり、さまざまな遊びなどを楽しみました。

パパやママは、カフェでコーヒーや抹茶、スイーツを楽しみ、来場したおよそ150人はイベントを満喫していました。



▲読み聞かせで食い入るように聞く子どもたち



12/2

ようこそ先輩、神納東小学校へ！ 本間至恩選手来校（神納東小学校）



▲全校児童で本間選手を囲み記念撮影

サッカーJ2、アルビレックス新潟所属の本間至恩選手が今年度で閉校となる母校、神納東小学校を訪問しました。

全校児童82人とサッカーボールを使ったゲームをしたり、一緒に給食を食べたりして児童との交流を楽しんだ本間選手。

児童からの質問コーナーでは、小学校の思い出を聞かれ、「理科室の机に蹴ったボールが当たり、机を壊してしまった」と当時を振り返っていました。

12/8

新潟県競書大会で最高の県知事賞を受賞 第69回新潟県競書大会（新潟県立近代美術館）

第69回新潟県競書大会の中学校の部において、山北中学校3年生の本間菜奈世さんが県知事賞を受賞しました。

本間さんは「練習では、なかなか納得のいく作品が書けず1日8時間以上書くこともありましたが、バランスをとりながら勢いのある字を書くのはすごく大変で苦労しました。でも、諦めずに書き続けました」と話していました。



▶県知事賞を受賞した
本間菜奈世さん



12/8

新年の豊作を願い練り歩き

オサトサマ（塩野町集落）



▲1 kmほどの距離をゆっくり練り歩きました。

市指定文化財で塩野町集落に伝承される「オサトサマ」が行われました。この年中行事は、新調されたしめ縄を熊野神社に奉納し、山の神である「オサトサマ」に新年の豊作を祈願するもので、350年余りの歴史があります。

役割は、露払い役の仲人にシメカツギとタルカツギが2人ずつ。担ぎ手は女性に扮し、墨で描いたひげ顔に鉢巻という滑稽な姿に。一説によると、女神である山の神が美しいものに嫉妬するため、あえて醜くしているとか。

シメカツギを担った夫を見守った瀬賀紀菜さんは、「初めて見ましたが、主人が伝統行事に携われて誇らしいです」と話し、ほほえみながら見届けていました。

12/8

めざすは茶ンピオン

T-1グランプリ（マナポーテ村上）



お茶の知識・種類当て・淹れ方の3部門の合計点数で競われる「T-1グランプリ」が行われました。

お茶を愛する市内外の小学校3～6年生36人が参加。お茶の種類当て会場では、香りや手触りを確かめ、粉茶や茎茶、紅茶などと思われるものを見定め、書き写していました。

6人で競われたファイナル茶レンジで、栄えある茶ンピオンに輝いたのは村上小学校6年生の本荘光さん。「前は4位と悔しい思いをしたけど、今日は最高のお茶を淹れようと心を込めて淹れました。お茶は他の飲み物と違い深みがあるところが良いところです。この賞を糧に外国人の方にお茶の良さをアピールしてみたいです」と話してくれました。



▲香りや手触りなどを見定める参加者

12/12

アンパンマンサンタが登場

クリスマス会（朝日保健センター）



▲アンパンマン達と一緒に記念撮影

子育て支援センターが主催するクリスマス会が行われ、市内の未就学児とその保護者204人が参加し、スタッフによる劇などを鑑賞して楽しみました。

会の最後にはアンパンマンサンタが登場し、一緒に記念撮影。その後、スタッフからクリスマスプレゼントをもらい、思い出の残るクリスマス会となりました。

12/14

壮観！1,000本の塩引き鮭

イヨボヤまつり（新潟漁業協同組合山北支所）



今年で23回目となる恒例の「イヨボヤまつり」が開かれ、魚の競りが行われる広いセリ場に、寝屋漁港で水揚げされた鮭（塩引き鮭）がずらりと並べられ、年越し用に買い求める人達でにぎわいました。

市内から訪れた30代男性は「毎年家族で来ています。お正月に家族や親戚で食べる塩引き鮭を買いに来ました。並んだ鮭の数が、凄い一言です」と話していました。



▲広いセリ場に並んだ塩引き鮭